第三種郵便物認可　昭和一二年一月十八日

十八夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘藏
印刷人　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

磐城炭礦爭議事件

他への波及を恐れ縣當局が必死の調停

互に讓らぬ會社と爭議團

磐城炭礦小野田坑に勃發した勞働爭議は、やがて磐城全山に波及し、更に入山炭礦をまで動搖せて血生ぐさい風は石城の空を覆ひ、附近に散在する三井、福島、古河の三大炭礦も何時その渦中にまき込まれるやもわからない狀態に蓬著し、日本坑夫組合の蹶起となり磐炭會が立ち左右傾無產政黨の尻押しとなつて、はては東都自由法曹團までが渦中に投じ、入り亂れての亂鬪となり、縣下の炭價は五割方の騰貴を見、警戒に當つてゐる縣警察部ではそろ〳〵豫算超過の悲鳴を擧げはじめるなど、かなり深刻な事態を醸し出して爭議勃發以來既に廿余日を經たが今はなほ會社側では「爭議團の要求は無暴過ぎる、吾々は既定の方針を固して如何なる犧牲を拂ふとも決して不利な前例は殘したくない」と云ひ、爭議團では「吾々の要求を認めないのは我我を人間として認めない證據である、我々は單に磐城炭礦の勞働者のためばかりで無く一般勞働者のためにあくまで資本階級の迷信打破を叫びたゝかふものである」といきまき兩者相讓らず殆んどいつ果てるや豫測もつかない狀態にあつてこのまゝ長びくやうな場合、足尾を始め北海道、九州方面の大炭礦に於ける炭礦、勞働者の思想上にも動搖を來す恐れあり、豫算超過の悲鳴は兎に角として縣當局では全く必死となつて調停に奔走してゐる。

暴行者八名收容

昨報—十七日午前二時內郷村字宮の澤大槻飲食店に於て爭議團五十嵐某等を袋叩きにした建國會書記長赤尾敏、磐炭會長若松惣太郎兩名外三十名は平署で取調べの上十七日中に前記二名外六名は平刑務所に收容され、十八日引續き平檢事局から小泉檢事平署に出張取調べ中である。

入坑者は漸次增加

磐城炭礦の勞働爭議は未だ全く終熄に至らぬが十六日の高坂坑入坑者は一番方百九十五名、二番方八十八名、計二百八十三名を算し漸次入坑者增加の傾向あり之れを平時の狀態であつた去月上旬にくらぶる時は三分の一の入坑者で目下二番方は中止の狀態にある、而して十七日の入坑者合計百十二名であつたが當日は會計日の翌日である爲め減少をなしたものらしく、今日頃から累加的入坑者の增加を見るであらうと見られてゐる。

炭礦爭議事件

遂に議會の問題となる

安達內相代理の答辯

磐城炭礦に於ける勞働爭議は多數の檢束を出した事から遂に帝國議會の問題となり十七日衆議院本會議に於て新正倶樂部田崎議士は緊急質問として炭礦勞働者が會社に對して賃錢値上げを要求した事は彼等の生活狀態から見て當然の事と思ふ、爭議團に對し磐炭會建國會等會社の反動團體が生じたについて過日爭議團代表者が松村警保局長を訪ふた時警保局長は「反動團體は資本家の金で賣はれてゐるのだから大した事はないだらう」といふ暴言を吐いてゐるがその眞否如何、尙ほ福島縣の警察官は取締りが不公平だといふ噂のあるのは如何なるわけか內相の答辯を求む

と突き込んだに對し安達內相代理は

磐城炭礦の爭議に就いては當局に於ても注意を拂つて居りますが、事の起りは一月十三日會社に於て飯場頭を解雇した事から發し、漸次反動團體なども生じ、爭議團は隊を組んで反動團體の一つ磐炭會の本部を襲ひ暴行を働き、漸次形勢は險惡となつて來たので福島縣知事は警察部長を特派し、警官二百名が該地方を警戒して居ります、現在爭議團に加入してゐる坑夫は四千五百三十七人、實際中心となつて爭議に從事してゐる坑夫は九百名位のものである、現在暴行のかどで取調べを受けてゐる坑夫は約六十名、之れは法の命ずる所に依つて所罰せらるゝものと思ふ、未だ調停は成立して居りませぬ、未だ內務省調停官も手を下して居りませぬ、形勢を觀望して機宜の措置をとる積りである

と答辯したが、磐城炭礦の爭議は今や全國的の問題となつたわけである。

炭礦爭議事件

會社側と爭議團に反省を促す

炭礦爭議余談

磐城炭礦の勞働爭議も開始以來すでに二十余日、以來今日までの會社の損害は實に十數萬圓の巨額に達し尙ほ一日經過すれば一日の損失が累算される、成る程對外的には最後まで强硬に構へるのもよからうが、つまらぬ意地づくから將來を閑却する事は考へものである、釜谷監督書記官が、「いゝ加減の處で見切りをつける事が會社將來の得策である」と喝破してゐたが、流石は名書記官だけに、先見の明は誠に驚嘆にあたいする。五大炭礦との申合せもあつうが會社の權威を失墜せぬ範圍に於て、大雅量大襟度を示して一歩を讓る普斷の持合せは無いものか知ら？會社は行く處まで行き、進む處まで進んだ、戰ひは慥に九分の勝利に期し尙ほ綽々たる余裕を見せてゐるこの機に臨んで會社が一歩を讓れば、その雅量を褒むる者はあらうこと笑ふ者はない笑である。

× × ×

爭議團に於ても、常磐炭界の主腦礦とうたはれてゐる大炭礦を向ふに廻して、よくも根氣よく對戰したものである、終始一貫攻勢的立場にあつて絕ねず會社を惱ましてゐた根强さは見上げたものである。會社の消極政策に反し、彼等の積極政策は敵の一大脅威であつた、策戰にたいして磐炭會は彼れ等の敵ではない、訓練のない磐炭會は策戰に於いて爭議團から、いつも裏を掻かれてゐた。一糸亂れざる彼れ等爭議團の足並は、實に正々堂々たるものであつた、彼れ等の戰法は鈍重な磐炭會に比し遙かに機智的であつた。ナマ暖かい御用の衣を着た磐炭會よりも、空手空拳、背水の陣を兩腕にかゝへて突擊する爭議團の態度は實に決死の力が奔流してゐた、數百の警官隊を突破して縱橫無盡に神出鬼沒の妙技を發揮したあたり物すごいまで目に映じた。

× × ×

しかし、それも永くは續かなかつた、同志の生活難襲來が非常な脅威であつた、一日休めば一日の損ごいふ觀念が米櫃の底から日一日と盛上がつてくる、同志はその頃から漸く倦怠を感じて幹部連の焦燥と時折り鉢合はせをなし、組合を脫退すれば命はないぞ」との脅迫に重い足を引きずりながら運動に加擔する仕末である、各所で開いた爭議演說も、自由法曹團の獅子吼も、唯徒らに警察當局からの反感を買つた位に止まり、何等反響も効果もなかつたことは氣の毒であつた。

× × ×

倦怠！疲勞！焦燥！虛勢！爭議團は實に多忙の中に一貫した、力盡き、彈丸絕ねた、步調亂れ、隊伍は稍崩れかゝつて來た、もう漸時である、會社側が、讓步の一石を投じたなら、爭議團に於てもいゝ加減な處で雅量の波紋を一刷描いてはどうか、虛勢と意固地は君だちの身の破滅である、「引くに引かれぬ」などと曳かれ者の小唄は太きな人の口にすべきではあるまい、それでもまだ心殘りがあるといふなら、ソレあの通り入山採炭が大きな兩手をひろげて君達のくるのを待つてゐるではないか、進めとは言はぬが一寸のぞいて見てはどうか!?

海兵檢査を終えて

徵募官の感想

合格者は三割

石城郡に於ける本年度海軍志願兵は割當人員七十五名に對し百名に達し其率に於て縣下第一位で之が學術身体の檢査は十六日十七日の兩日平町元石城郡役所で執行したが、合格者は

▲電信兵八名▲機關兵十二名▲水兵十一名▲船匠兵一名▲主計兵一名、合計三十三名

であつた、之について徵募官井上肇大佐は語る「不合格の者は大部分胸圍の不足が理由であつた、花柳病は志願者であるからはれてゐるものゝ土葬は依然として多く八百八十八名であつた火葬場は九十箇所あるが村落の火葬場は傳染病で死亡した者のみを火葬にする風習なので唯完全な火葬場として造られてゐるのは平町位のもので昨年中の火葬人員四百七十九名であつたと

石城郡の埋葬

土葬が一番多い

石城郡の大半を管轄區域としてゐる平署管內に於て昨年一月から十二月までに死亡した人員は一千三百六十七名であつたがこの死亡者を埋葬する墳墓地は二百七十五個ありその反別は一萬六千九百二十一町歩に當つてゐるが年々死亡者が增加するので墓地は何れも狹隘を告げてゐる始末である、石城郡地方は土葬が古くから行はれてゐるので俄かに火葬による譯にも行かないが平町を始め各町では墓地狹隘の善後策として火葬が一般に行はれてゐるものゝ土葬は依然として多く八百八十八名であつた火葬場は九十箇所あるが村落の火葬場は傳染病で死亡した者のみを火葬にする風習なので唯完全な火葬場として造られてゐるのは平町位のもので昨年中の火葬人員四百七十九名であつたと

漁業組合 存續認可

石城七濱漁業組合のうちかねて主務省に對し專用漁業權存續更新の認可申請のもの左の如く今日認可の指令があつた、而してその存續期間は何れも二月一日から昭和二十一年九月末日までである。

▲勿來町關田濱漁業組合、小名濱町小名濱漁業組合、江名町江名漁業組合、錦樹田中浦漁業組合、豐間村漁業組合、沼ノ內漁業組合、薄磯漁業組合

▲中山氏の町葬

江名町長中山元治氏の町葬は十八日午後二時自宅出棺同町眞福寺で行はれたが會葬者五百余名同町空前の大葬儀であつた。

カシキモノ
貸衣裳
平古鍛冶町一
茗荷屋貸衣裳店

▲二社紀念祭

縣社子鍬倉神社、村社八阪神社の紀念祭は十八日午前十時執行された。

（小學生作文）

▽柿　サヽキケンジ

秋の山に
柿なつた
まつかに
じゆくして
うまそうに
からすが一羽とんで來て
つゝいて
ぽつたりれとします。

投票用紙

「模擬平市會議員」

三日目滿員御禮
水戸黃門
平　館

セキドメタンキリ
鎮咳痰切

ぶどうの木ぶどう糖

主効
咳　喘息　感冒　肺病　血混　氣喘　臭咽喉　空咳　百日咳　小兒咳
定價　一冊　五十錢　一箱　半錢　八十錢
本家　東京淺草　比田商會　東京橋川元通堂
振替　東京三五〇七二

▽申込カワセ又は振替▽全國藥店にあり▲

特約店　平町四丁目　關內藥局　電話四〇番

「平模擬市會」市會議員得票

三五一票　吉田寅之輔氏

三四〇票　井上貞次郎氏
一三八票　高橋龜松氏
一七二票　綠川喜三郎氏
一五八票　齋藤英三郎氏
一四〇票　三森虎雄氏
一三七票　白井一郎氏
一二六票　馬目雅治氏
一二一票　酒井清氏
一一三票　鈴木昌雄氏
一一二票　吉村安次郎氏
一一一票　柴田德二氏
一一〇票　須田甚太郎氏
一〇九票　諸橋守次氏
一〇七票　山野邊東次郎氏
八十一票　關內正一氏
七十八票　馬目武之助氏
七十四票　荻原義雄氏
六十票　保坂龜八郎氏
六十票　大森勇氏
六十票　櫻井清氏
六十票　山崎德次郎氏
五十票　渡邊源吉氏
四十三票　眞木桓氏
四十票　猪狩庄平氏
三十二票　阿部政右衛門氏
三十二票　蓮沼龍輔氏
三十一票　草野順平氏
三十一票　橫山順氏
三十票　諸橋正次氏
三十票　鈴木武雄氏
二十八票　鷹崎正見氏
二十六票　多田井笑次郎氏
二十四票　山田盤麿氏
二十三票　杉本榮一氏
二十一票　鈴木邦三郎氏
二十一票　高倉精一氏
二十一票　佐藤武之氏
二十票　木田藤次郎氏
十八票　山崎清三氏
十五票　海老原章四郎氏
十二票　千葉彥治氏
十二票　諸橋元三郎氏
十一票　關內喜久次郎氏
八票　瀧澤俊平氏
七票　山野邊大五郎氏
六票　市原守馬氏
五票　中野康平氏
五票　長瀨延太郎氏
四票　吉田喜代治氏
四票　坂本隆藏氏

冬物殘品藏拂ひ
思ひ切つた値段をお試し下さい
山家ヤマメリス店
平町一丁目（電話六〇五番）

カキは一の井
料理はカキ

鐵筋コンクリート
住宅、商店、事務所
設計監督請負
平町田町
丸山喜一郎
電話六二番

婦人病血の道の妙藥
美容にして強壯の効著大
血をふやし肉を肥やす
スポン館
定價壹圓・貳圓・徳用五圓
代理店
山野邊藥局
平町五丁目角

女中入用
年齢十七八歳以上—住込み或は通勤
平町紺屋町　佐藤作平

平町病醫院案內

胃腸
內科
專門
十二指腸虫病
淋病
婦人病
梅毒
專門
包茎
肛門病
平町南町
松村病院
電話一〇七

內科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
高久病院
院長高久忠
平町電話一三五

診察無料
其他實費
平町實費病院
（電話五五一番）

陸軍醫院
平町土橋通り
電話三一番

外科一般、婦人科
耳鼻咽喉科
慈惠醫學士新妻由五郎
日本醫學士高橋貢
赤心堂病院
田町電話四七五

外科
專門
入院隨意
上田外科醫院
南町電二九

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話六八番

大和田醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

產科婦人科
二月一日より診療開始
產婦人科部長
醫學士野秋善直
尙ほ院長菊地博士は毎日午前九時から午後四時迄又何時でも往診します
菊地博士の住所
舊城跡三ノ丸（丹後澤）
醫學士城共濟病院
看護婦至急募集す